

北國銀行デジタル部
宇都宮 輝さん

【お子さん】令和4年12月生まれ
【育休取得期間】1か月

便利家電の利用で家事の負担を軽減。組織も業務の効率化にて、育児と両立しやすい環境を。



—育休はどのくらいの期間取得しましたか？

妻が年末に出産し、里帰りから自宅に戻った2月半ばから1か月間の育休を取りました。私は1か月という期間でしたが、もっと長く取得した話も聞くので、行内では男性の育休はもう珍しくはありません。この1年間の行内における男性育休の取得割合は8割程度まで増えているはずです。1日のみの取得も

カウントされるので、実態とは乖離があるかもしれませんが。

私の部署は繁忙期と閑散期の差が顕著で、2~3月は業務が比較的落ち着いているので、2月半ばからの育休は取りやすかったです。ただ、3月1日付で出向というスケジュールだったので、そのまま出向先で取ってもいいものなのかという懸念はありました。

—出向のタイミングを挟んでの育休だったんですね

3月1日から県庁に出向という立場で、当初は「こんな取り方をして大丈夫なのかな」と正直気がかりでした。でも育休明けの3月半ばから新たな環境で特に問題なく仕事を始めることができましたし、むしろちょうどよかったかと思っています。

子育て経験のある女性が人事部長になって、より育休の取りやすい環境になった

—行内では早くから男性育休が浸透していたんでしょうか？

そうですね。理由として考えられるのは、「子どもが生まれます」という報告をすると、総務から「男性にも育休があるよ」と伝えられるので、職員の認知が高まったということ。あと、人事部長が子育て経験のある女性に変わった点が大きいです。「子育ては大切だから協力していかないといけない」という認識が広がりました。

—職場以外で、ご家族や周囲の方はどんな反応でしたか？

世間一般ではまだまだ珍しいのは確かですね。父や兄からは「男が育休を取って何をするんや？」と聞かれました。兄は会社員を辞めて現在自営業をしていますが、「自分が勤めていた会社では考えられない」と話してました。従来の日本企業では男は働き続けるのが当たり前だったので、その気持ちもよく分かります。でも、今は1,000人以上の企業には男性の育休取得率の公表が義務付けられ、有価証券報告書にも記載が必要になりました。「時代は変わってきてるんだよ」と父や兄には伝えていきます。



(ご本人提供写真)

虐待という行為は納得できない、でも心情は理解できる

— 育休が始まってみて、実際の育児はいかがでしたか？

完全に甘く見ていて、「子育ては親がつきっきりで面倒を見なければいけないから大変、と言われてるけど、実はそこまでじゃないだろう」と思っていたんです。実際に始めてみて、自分の間違いに気づかされました。とにかく夜に何度も起こされるわけです。おむつ替えや授乳をしてベビーベッドに置いても、なかなか寝てくれない。置いたままにしていたら1時間でも泣き続ける。抱っこし続けないと寝ない。

子どもが生まれる前は、虐待のニュースを見聞きするたび「幼い子を相手にそんなことをするなんて人としてありえない」思っていました。でも自分も育児に関わってみたら、話は通じないし、昼夜問わず世話をしなければならないし、延々と泣き続けられる。ひとりで抱えていたら、精神的に追い込まれても不思議じゃありません。もちろん虐待という行為に納得はできない。でも心情は理解できます。

—育児ってひとりで抱えていると精神的に追い詰められますもんね。

ありがたいのはお互いの両親が健在なことです。母が子どもを預かってくれたり、妻の実家が預かってくれたりするので非常に助かっています。妻は3人きょうだいですが、同じ年ごろの小さな子どもたちがいて、よく妻の実家に集まってみんなで一緒に過ごしています。犬もいるので、さながら動物園のよう（笑）。昔ながらの子育て風景に近いのかもしれませんがね。こういう環境があるってありがたいです。

育休を取らずに仕事だけしていたら、妻が日中どうやって子どもと過ごしているか知りようがありません。話を聞いて想像するだけじゃ大変さなんて分からないですよ。1時間泣き続けられるとどういう心理状況になるのか。追い込まれる気持ちや、育児と家事で1日終わってしまう感覚。経験した今なら理解できます。

家事を極力減らして、その分気持ちに余裕を

—家事も積極的にしていましたか？

家事は全然得意じゃないんです。得意じゃないので、どうやったら楽ができるか常に考えてます。そのおかげで、便利な家電にはずいぶん詳しくなりました（笑）。最近の家電には本当にいろいろあるんです。例えば自動調理器。食材を入れてボタンを押すだけで、勝手に火加減を調節してくれて、料理を仕上げてくれます。食材とレシピがセットになったミールキットも売っているので、それを用意しておいて、自動調理器に入れて、ボタンを押すだけで完成です。ミールキットを入れてボタンを押すだけ。誰でもできます（笑）。

—そんな便利なものがあるなんて！（笑）

本当に簡単なのでおすすめです。自動調理器はもともと実家で使っていたのをもらってきました。さらにもう1台購入して、2台で動かしています。離乳食も作れるのでとても便利です。家事が苦手という方にはぜひとも取り入れてほしい。自動調理器は煮込み料理に向いていますが、最近は炒めるタイプのもも出ています。8番らーめんチャーハンを作る機械がありますが、あんな感じです。炒める機械もあればもう怖いものなし（笑）。我が家も導入を考えています。

—家事の労力を減らすというのは、ものすごくいい視点ですね

家事は極力減らしたい派なので（笑）。洗濯はドラム式洗濯機で回して、下着などは乾燥機で乾かして、干す手間を省きます。もうすぐテレビも買い替えます。子どもがひも状のものが大好きで、テレビのケーブルを噛もうとするんですよ。今はケーブルのないテレビも販売されているので、それを購入予定です。部屋はすっきりするし掃除の手間もさらに省けそう。その分気持ちに余裕が生まれますね。



（ご本人提供写真）

組織内の業務の効率化にて、労働時間を減らせるように

—育休を取ることで気になった点などはありましたか？

私の場合は育休時期が繁忙期からずれたのでよかったです。仕事が忙しい時期だと取りづらくもありませんね。1か月抜けるとなると、担当のお客さんを上司にお願いしないといけません。ただ、オンラインミーティングも増えてきているので、テレワーク推奨の追い風に乗って、育休が取りやすくなると思います。

—やはり職場環境のあり方には左右されますよね。

仕事と子育ての両立には、労働環境の改善が不可欠だと思います。出向で県庁にいますが、県庁職員のみなさんは勤務時間が長くて、銀行よりも大変そうだなと思いながら見えています。

銀行でも県庁でも、どこの組織においても、慣習的で無駄な作業って結構あると思うんです。そういう作業は、新卒からずっと同じ組織にいと慣れてしまおうし、中途で入れば「こういうものだから」と受け入れなくてはならない。でも業務を効率化させない限り、労働時間は減らないし、家庭と仕事の両立は難しいと思います。大きな課題ですよ。

—企業にはもっと変わっていく必要があります。

企業の経営層が意識をアップデートしていくことが今後ますます必要になっていくんじゃないでしょうか。トップが組織に与える影響力って大きいですから。北國銀行も夫婦で子育てをしてきた女性が人事部長になって変わりました。子育てに深く関わってきた人が重要なポジションに入ると、組織って変わるんだなと感じています。

育休は正直言うともっと取りたいですね。1か月程度だと育休を取ることが目的になっているような気がして。せめて3か月は取らないと育児に関わったとは言えないんじゃないかな。これからの時代、取らない選択肢はないと思います。

取材・編集／子育て向上委員会 長谷川由香